

2023年 EROPA 会議に参加

シンガポール事務所

2023年10月16日（月）から20日（金）までの5日間、ベトナムのハノイで開催された EROPA 会議に参加しましたので、その様子をご報告します。

1 EROPA の組織

EROPA (Eastern Regional Organization for Public Administration) とは、アジア・太平洋地域の経済及び社会の発展に資するため、各国の行政の質の向上を図ることを目的として、1960年12月に設立された国際組織です。EROPA には3つの会員構成（国家会員・団体会員・個人会員）があり、クレアは団体会員代表として参加しました。国家会員として、日本からは自治大学校が参加しました。今年は第68回執行政理事会に加え、2年に1回開催される総会及び会員代表選挙が行われました。

クレアは、団体会員代表選挙にこれまで毎回立候補し代表に選任されていますが、このたび、2024年1月1日から2025年12月31日までを任期として再選出されました。クレアは、日本の行政におけるベストプラクティスに関する知識を共有することにより、EROPA とその会員の持続的な発展に継続的に貢献することを目指しています。

2 EROPA 会議

会議では、「持続可能な開発目標に向けた社会経済の回復と開発における公共ガバナンスの役割」というメインテーマに基づいて、プレナリーセッションやパラレルセッションが開催され、参加各国の研究者等が発表を行いました。

日本からは、上子秋生（立命館大学）教授、稲継裕昭（早稲田大学）教授、菊地端夫（明治大学）教授、藤原直樹（追手門学院大学）教授、西村謙一（大阪大学）准教授、中川豪（公益財団法人日本都市センター研究室）研究員、寺田健人（早稲田大学）学生が参加し、研究報告を行いました。

Q&A セッションでは、参加者から質問が多く寄せられ、地方行政が抱える各国共通の課題に対する日本の研究や取組みに高い関心を持っている様子が窺えました。



記念撮影の様子



研究報告の様子

3 所感

今回、この国際会議に出席する機会を得て、各国政府の取組みや大学教授の研究発表を通して多様なテーマに触れることで、様々な立場で行政の発展に尽力している方々から刺激を受けました。また、各国の政府機関関係者や大学教授などと話す機会を得て、多岐にわたる組

織との連携を強化し、クレアのプレゼンスを高める貴重な機会となりました。

国際会議に参加する意義は、様々な実践事例を共有し、他国の思考や視点、あるいはノウハウを吸収し、自国に還元することだと考えられます。我々地方自治体の職員は、彼らの研究に積極的に協力しながら、また彼らの意見を取り入れながら行政の質を向上させていかなければならないと感じました。

また、会場では、国家行政学院（NAPA）の学生ボランティアの活用を含めた細かな気配りを垣間見ることができ、大変貴重な経験となりました。

（大辻所長補佐 東京都派遣）

